

動注療法管理

目的

- 動脈への薬剤の投与

必要物品と準備



- 医師の指示薬剤
- テルモロック付きシリンジ
- ナミック フルイド アンド モニタリングライン (血管造影キット)
- マニホールドキット (CX モニタリングライン) × 2
- テルモシリンジポンプ
- アルコール綿
- ビニールテープ (薬剤表記用)

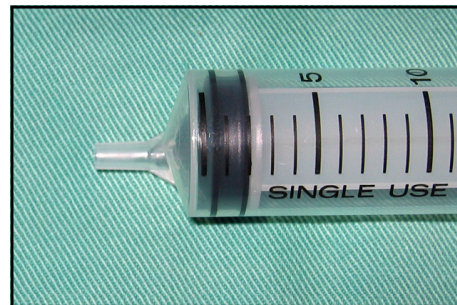
* 動注療法では必ず耐圧のライン、三方活栓を使用すること

ロック付きシリンジ と 普通のシリンジの違い

① ロック付きシリンジ



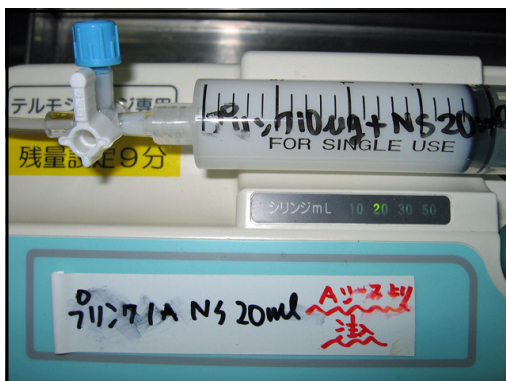
② 普通のシリンジ



* 接続不良とならないように必ずロック式のシリンジを使用すること

投与手順

- ① 指示薬剤をロック付きシリンジに用意する。(シリンジ内に空気が残らないように)
- ② シリンジとナミック フルイド アンド モニタリングラインとマニホールドキット 2本を接続する。薬剤名を記入したビニールテープをシースに接続するチューブ先端に貼付する。
- ③ シリンジをシリンジポンプにセッティングし、チューブ内に空気が残らないように薬液を満たす。薬剤の組成をビニールテープに記載し、シリンジポンプに貼付する。



- ④ マニホールドキットと動脈内に留置されたシースを空気が入らないように接続する。
- ⑤ 指示された流量で薬剤を投与する。
- ⑥ ループを作ったチューブを、ガーゼでまとめ、プラスチックコップで固定する。



考えられる重大な合併症

- シースの事故抜去
- 接続不良による出血
- 空気塞栓

観察点

- シース挿入部の観察(出血していないか、抜去しかけてないか)
- 投与されている薬剤が指示通りであるか、表記されている組成か確認
- シリンジ・チューブ内に空気が入っていないか
- 薬剤が正しく投与されているか
- 接続がゆるんでないか、チューブ内に逆血・屈曲がないか

技術習得チェックポイント

- 動注療法の目的が理解できる
- 医師の投与指示確認ができる(どこへ何をどのように投与するのか)
- 薬品および物品の準備ができる
- 気泡の混入なくシリンジに薬剤の準備ができる
- 耐圧ラインへの接続準備ができる
- ロック式シリンジや耐圧ライン、耐圧の三方活栓を使用する必要性が理解できる
- 投与ラインへの接続、固定ができる
- 投与中の観察、管理ができる
- 管理中の合併症を理解している
- 投与に関する記録ができる